

男女共同参画情報紙

いきいき
パートナー

私たち「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」は、市と協働して男女共同参画社会の実現を目指し取り組んでいます。今年度に行った主な活動などについて紹介します。



災害について学びました



男女で担う生活サポート講座 救護活動を通してみえた被災地の状況

8月28日

サポート講座では、諏訪赤十字病院訪問看護ステーション看護師の丸茂努さんをお招きし、能登半島地震の被災地で、災害救護班が活動されてこられた内容を、実際の写真を見ながら講演して頂きました。

写真から見ても、大変甚大な被害であった事を改めて目の当たりにし被災された方の気持ちを思うと胸が痛みます。

災害救護班活動は、医師(1名)、看護師・サポーター(7名)で1チームとして構成されています。各避難所へ行き、避難所の稼働状況や、人数確認、医療的ニーズ、不足している物、困っている事などを把握し、状況に合わせてサポートされていました。必要ならば、医師の診断で薬の処方してもらえ、次回の訪問で薬を届ける事もあるそうです。道路が悪く、目的地になかなかとどりつかず時間ばかり経ってしまって、焦りを感じる事もあったそうです。

被災者は指定避難所に入れず、自主避難された方も多かったそうです。避難出来る場所を普段から確認しておく事が大切で、発災時は自ら避難場所を設営していかなければいけない事も分かりました。

また、女性の視点に立った避難所の設営や運営、環境整備は平時から参加する事で対応が変わってきます。とお話を頂きました。今回、日赤救護班の役割や活動を知ることができ、不安がやわらぎました。活動して下さっている事に感謝いたします。(中嶋博美)



ともに生きる諏訪セミナー 「能登半島地震の支援活動を経験して」

11月24日



11月24日、諏訪市総合福祉センター 3階交流ひろばにおいて、いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA 主催による「能登半島地震の支援活動を経験して～災害時に自分自身でできること～」という演題で、諏訪市防災ネットワークの笠原敏彦さんが、現場に行きその現状や写真、そしてその写真や話を見たり聞いたりしてきたことも話されました。私たち自身もいつそのような目に合うかわからないので、家族で前もって話し合っておき、何か事が起きた時、どうしたら良いか、心の準備が必要であり、そんな時のために困らないように、必要最低限の物資は用意しておくべきだなと思いました。(武田なつ子)



視察研修 組合立諏訪中央病院

10月29日

10月29日組合立諏訪中央病院の働き方改革をお聞きするために訪問いたしました。組合立諏訪中央病院は救急から在宅までのケアミックス病院です。日本初、診療からリハビリ医療までの地域密着型（食改と減塩運動）デイケア施設です。（諏訪赤十字病院は高度医療と急患のみ）昭和25年8月1日開設。昭和33年8月諏訪市・茅野市・原村の組合立病院となりました。

医療方針 スローガン 「あたたかな急性期病院」として「病院への入り口を
快く病院からの出口を丁寧に」対応できる医療を実施

基本理念 やさしく、あたたかい、たしかな医療を目指す

医療目標

- ・ 充実した救急医療
- ・ 安全な医療
- ・ 患者さんの権利を尊重した思いやりのある医療

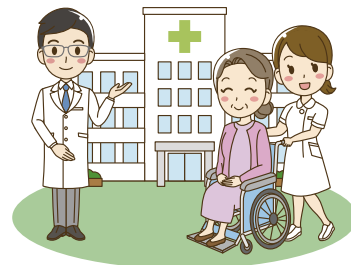
を掲げています。

ケアミックス病院として二次医療体制を担い、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、諏訪中央病院看護専門学校を併設。診療科目は内科、リハビリテーション科など32科と職員数852名で、夜間看護を2人体制でパソコンのAIを活用し職員の負担軽減をしています。離職を防ぐ対応として、女性育休取得率は100%男性62.5%（男性の子育て目的の休暇取得促進を行っている）子育てサポートとしては、託児所、病児保育所、助産院の活用で悩みを相談できます。

女性管理職の登用率は、管理職職員全体74人、女性21人28.4%で、令和7年度に30%を目指しています。その他にやりがい度調査、ストレスチェック、資格を取るための修学資金の貸与があります。

守るべきものは、社会的共通資本としての医療（施設の老朽化）の対策、更に2040年問題の八ヶ岳南麓の人口増加による要介護者急増に対応するべく在宅医療をどうするかということ。

視察を終えて感じた喫緊の課題は、自分の年金だけでは利用できる老健施設がどこにもない！ということ。この厳しい現実には地域格差の現れか、それとも男女別賃金格差のひずみだろうか…。（遠藤恵美子）



男女で担う生活サポート講座 子育て・孫育て講座 7月17日

最近子どもの発達障害、発達特性に関する記事を目にします。夏休みを前にもう少し詳しい情報を知り、その子に合った関わり方、接し方を学ぶ機会として、諏訪赤十字病院小児科医師佐々木拓先生を講師としてお招きし、講座を開催しました。今は一人ひとりの個性を大切に、その人らしい生き方を尊重する時代です。発達特性とは、発達障害との違いなど改めて知ることができ、大変勉強になりました。

発達特性と発達障害の違い

発達特性とは…機能を損なわない発達の欠陥、脳の生来の機能的・構造的な特質で、生涯にわたり大きく変わらない。治すものではない。知的能力、こだわりの強さ、不注意など。

発達障害とは…個人的・社会的学業あるいは職業的な機能を損なう発達の欠陥、発達の時期に発生する条件を持つ障害。自閉症スペクトラム、多動性障害など。

発達特性を理解した上での対応

- ・ 発達特性は病気ではなく、悪いものでもない。
- ・ 不適応な環境におかれ、不適切な対応を受けると、不適応になる。不適応になると、発達特性は発達障害になる。
- ・ 対応の基本は、発達特性を含めて本人の価値を認めること、わざと苦手な環境設定をして失敗を招かないこと。
- ・ 不適応にならないように、あるいはすでに不適応であるならば、教育・福祉・医療など使えるものは使いましょう。

多様性の求められる今こそ、子どもの特性を見極めたうえでの対応の仕方を大切に、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる諏訪市づくりを目指したいと思います。（鴨志田明子）





男女共同参画週間について

男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

6月26日

6月26日(水)東京国際フォーラムにおいて行われた「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に現地参加しました。「男女共同参画社会基本法」の交付・施行日である平成11年6月23日にちなみ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、週間の主な行事としてこの会議が開催されています。今年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズは「だれもがどれも選べる社会に」です。

「男女ともに自らの個性と能力を最大限に発揮できる社会を実現するために」と題して4名のパネリストが登壇し、ディスカッションが行われました。パネリストの中には上田市のコワーキングスペースを開設し現在は㈱はたらくクリエイティブ代表取締役の井上琢磨さんが、女性が働き続けられる環境を核とした会社を立ち上げた話や、兵庫県豊岡市のくらし創造部多様性推進・ジェンダーギャップ対策課課長補佐の原田紀代美さんの「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」策定についての話のほか2名のパネリストの事例紹介がありました。最後にそれぞれの方から「全員活躍」「相互尊重」「気づく・自分ごとにする」「仲間(社会を変えるためには仲間が必要)」「ありがたい姿」という「キーワード」が提示されました。一步を踏み出すきっかけをもらったパネルディスカッションでした。現地参加者が少なく、コロナ前の活気が感じられず残念でした。(岩波万佐巳)



いきいき市民推進チーム☆輝くSUWAの取り組みについて

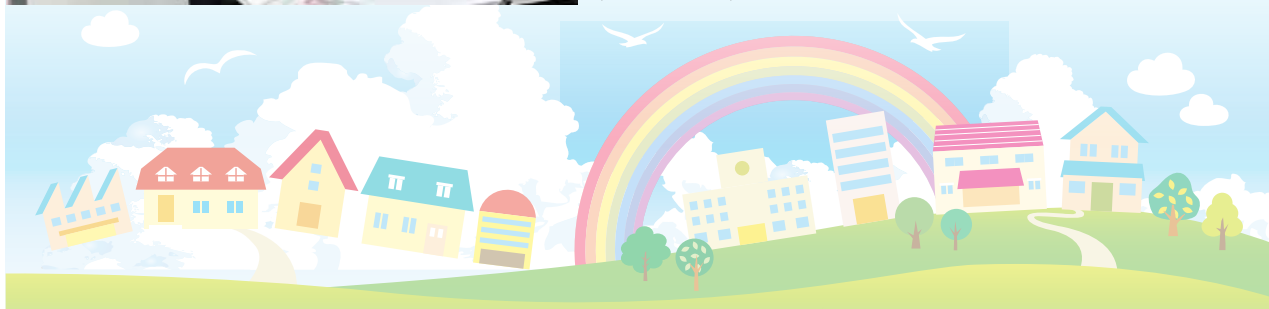
私達は、すわっチャオのイベントスペースにおいて、パネル3点「①デートDV」「②避難所体験」「③JKビジネスAV出演強要」を展示し、啓蒙活動に努めました。また、パネルを見ての感想や「個性を發揮できる社会」について、自由に書いて頂くコーナーを作りました。その中の一部を紹介いたします。



- ・パネルを見せてもらい女性の性的悩みは尽きませんね。男女ともに明るい未来を創るために…偏見をなくし、視野を広く、想像力を豊かに、男女関係ない社会を!
- ・教えて!女性も、男性も、どちらでもない人も、自立って何?
- ・そうよね!と受け止める心、ありがとう!と感謝の気持ち、お互いに認め合うことが第一かな〜と考え続けています。

他7点が寄せられました。

皆さん方の貴重なご意見を参考にしながら、一層前向きに活動을続け「輝く諏訪」を作っていきたいと思ひます。
(北村けい子)





ともに生きる諏訪市民大会 (映画上映会)

6月30日

今回はカンヌ国際映画祭脚本賞（監督 是枝裕和、脚本 坂本裕二）を受賞した「怪物」を上映しました。

コロナ禍明けで、文化センターに老若男女600人が来られました。映画は諏訪市をはじめ富士見町、岡谷市などが撮影場所になりました。学校シーンでは、旧城北小学校が使われ、また諏訪市の人達もエキストラとして出演していて、とても身



近に感じました。

しかし内容をしっかりと理解するには1回の鑑賞では無理で、家に帰ってパソコンで見直し、怪物を最後まで探しました。

二人の男子の最後のシーンで「男子は周りの固定観念に影響され、自分を怪物だと思い始めていたのかな？」と少し理解できました。

皆さん方はどうでしたか？(守屋輝代)



入会しての感想

長年いきいき市民推進チームを行ってきた内容や会を守ってきた方々はとても歴史があり、環境や世の中が変化した中でもこの活動は動いています。

なぜならまだまだ男女共同参画という動きが薄いからです。しっかり男女共同参画に向き合っていくと行っている活動は考えていかなくはない事がたくさんあります。少しでも私たちの思いが届くように精一杯発信していきたいという強い気持ちに自分自身思うようになりました。世代が変わりながらも今までやってきたこと、意見など一緒に分かち合いながら進めていただきました。理解を深め、この地域に貢献できるように活動を続けていけるように頑張っていきます。(倉嶋理絵)



いきいき市民推進チーム☆輝くSUWAってどんな団体？

会員
募集中

私たち「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」は、性別にとらわれず互いに人権を尊重し、個性と能力を発揮して社会のあらゆる分野に対等な構成員として参画でき、ともに責任を担う「男女共同参画社会」の実現を目指し取り組んでいます。

社会や地域との関わりを持ち、自分らしくいきいきと生きたい方、男女共同参画社会に関心がある方ならどなたでも大歓迎!!日頃の活動が難しくても、イベントの参加だけでもOK!!お気軽にお問い合わせください。

編集後記

能登半島の地震に始まった令和6年、世界はいろんな争いや災害が多くあったと感じる年でした。日本のジェンダーギャップ指数は相変わらず118位と低く、押し下げている要因は政治参画と経済参画の低さにあるといわれます。前回の衆議員選挙では、女性参加率は11%から15.7%と上がりました。まだまだ世界の平均より低い状態です。世界中にもっともっと女性たちの活動が広がり、争いのない世の中になるといいですね。(沖野富美子)